

こうじ  
や 24

日本女子大学 心理学科の会 会報

# 第 24 回心理学科の会総会

2018 年 10 月 20 日(土) 第 24 回心理学科の会総会が行われました。  
出席者 16 名/委任状 393 名により 会費納入者 532 名の過半数を超え、総会が成立しました。

## 会長再任（継続）

会長 中村眞理 氏（現・博士課程後期 3 年）

2 年任期を満了しましたが再任で 2 年継続が承認されました。



## 会長 中村眞理氏よりご挨拶

「みなさま、こんにちは、中村眞理です。次年度も引き続きよろしくお願ひ申し上げます。  
私はスクールカウンセラーをしており、今回開催された心理学科の会講演会は、明日から  
すぐにでも使える大変有意義な講演会となり感謝しております。  
このような会を開催準備して下さった係のみなさん・先生方・中央研の皆様ありがとうございます。  
いました。心理学科の会が発展できるように会長として尽力して参りますので、今後とも  
どうぞよろしくお願ひ申し上げます。」

## 2017 年度 活動報告（事業報告）

◆総会開催 『日女祭』 同時開催 2017 年 10 月 21 日(土)

◆講演会 2017 年 10 月 21 日(土)西生田キャンパス B 棟 22 番教室

「これが私の生きる道～先輩方が選んだ進路とは～」

本学心理学科卒業生 3 名 伴 由依 氏（株）クリーク・アンド・リバー社所属

三浦 美 氏 法務省 法務技官

佐野智世 氏 東京都児童相談所 児童心理司

ファシリテーター 塩崎尚美 先生

◆さいころじん(第 23 号)の発行

◆総会準備(卒業生へ総会の案内送付、2017 年度決算報告の作成、2018 年度予算の作成など)

## 2017 年度 決算報告

\* 次頁参照



心理学科の会 総会の様子

## 2018 年度 活動方針（事業案）

### ◇活動方針

継続して、卒業生委員の活動を活性化する

### ◇事業案について

- ・ 講演会 2018年10月20日(土)西生田キャンパス B棟24番教室  
「発達支援の科学～基礎から臨床まで～」  
講師：慶應義塾大学教授 山本淳一先生
- ・ さいころじん(第24号)発行準備
- ・ 総会準備(卒業生へ総会の案内送付、2018年度決算報告の作成、2019年度予算の作成など)

## 2018 年度 予算案 \*下記参照

### 会員承認について

新会員 74名(大学院生4名／学部生70名) 承認

2017年度 会計決算報告  
2017.10.1～2018.9.30

収入の部 (単位：円)			
費目	予算額	決算額	適用
前年度繰越会	2,378,251	2,378,251	
入会費/会費	600,000	543,000	H29年度新入会費/会費
雑収入	100	2,018	利息他
心理学科助成金	179,000	179,000	大学行動助成金
合計	3,157,351	3,102,269	

2018年度 会計予算案  
2018.10.1～2019.9.30

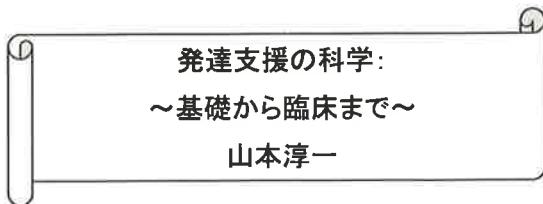
収入の部 (単位：円)			
費目	予算額	適用	
前年度繰越会	1,990,219		
入会費/会費	600,000	H30年度新入会費/会費	
雑収入	100	利息	
心理学科助成金	179,000	大学行動助成金	
合計	2,769,319		

以上、相違ありません。

2018年 10月17日

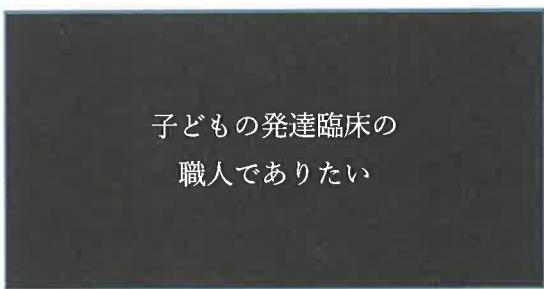
心理学科の会 委員 M1

市川 恵理



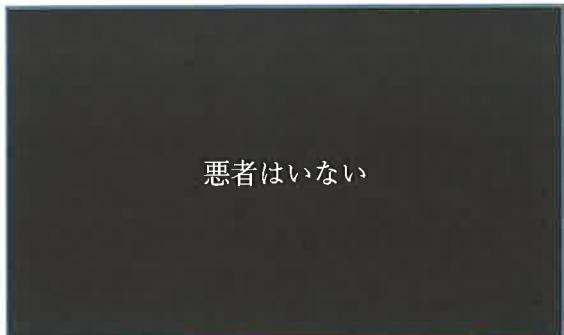
今回我々心理学科の会が講演会にお呼びしたのは「できる！をのばす行動と学習の支援」などの著書で知られる慶應義塾大学文学部教授の山本淳一先生。「発達心理学」「学習心理学」「臨床心理学」「実験心理学」「応用行動分析学」と研究分野は多岐にわたる。今まで数々の授業を受けたエキスパートである我らが心理学専攻の先輩方が「授業で講義を受けた際に大変わかりやすく面白かった」と名指しで講演を求める先生、一体どんなお話をなさるのか、何が女子大学院生のハートを惹きつけたのかその核心に迫る。

講演会当日、開始時間 30 分前には既にたくさんの方に講演会会場でお待ちいただいた。世代も幅広く、予想を上回る来場者数に、こんなに多くの方が 15 分の登山を経て日女祭に来て下さったのかと感極まる同時に、多くの方々を惹きつける先生の講演の魅力は何なのだろうと期待値がますます高まる中、先生の講演に臨んだ。講演内容は「今、ここで(学校、家庭、地域)」起こっている子どもたちの問題の予防、早期発見の解決するためにどのような支援研究と支援実践が必要かについて。ここでは講演の中で心に刺さったお言葉をあげる。



仕事において常に職人でありたい。  
職人の技は子どもから離れると落ちる。  
だから日々子どもたちと関わる生活を送っている。

雑音に耐えられず教室を飛び出そうとする発達障害の小学生とクラスを統一させたい先生、どちらが悪いのではなく俺ルールと先生ルールにズレがある。問題が起きたときは必ず双方のルールのズレを見つけ、お互いのルールを明確にする。



良いところを常に探す行動の構えが発達臨床の基本の基本。  
本人のグッとくるポイントを常に見つけて褒め、ひたすら伸ばす。  
欠点である問題行動をなくせばいいと思いがちだが、良いところを増やせば嫌なところは自然となくなる。

#### どうしても叱らなければいけないとき

叱ると感情を喚起させられるだけ、何故叱られたのかわからない。  
してはいけないことをルールで示して、  
してはいけないことを「しなかったこと」を褒める。

臨床家が腕を上げるとき  
「本人の強みを見つけられる」

#### 「こだわりが強いラーメン屋」

発達障害の特徴である「こだわりが強い」は悪いイメージがあるが、「こだわりが強いラーメン屋」というと良いイメージ。こだわりが強いことは、自分が決めたことを絶対に守るということでもある。授業の見通しを黒板に書くなど目から刺激を与えることで明確にする、授業のルールと一緒に決めてることで授業に集中できないといった発達障害の問題を解決する。そうすることで適切な行動を増やし、うまくいったことを褒められるといった機会を生活に与えることができる。

山本先生の講演の魅力を短文で伝えきるには不可能であった。ただ一言で伝えるとすれば、巧みな例え話と講演内容の体感性に座学の理解度の限界を超えた講演であった。発達障害の五感が過敏に反応してしまうという特徴を体感できる映像や、実際に技術を適応し成功させた過程が記録されている映像を見ることで、我々は内容をよりリアルに身近に感じることができ理解が深まった。また内容を理解するだけでなく講演で聞いたことを身近に実践できるという希望を与えられ、発達心理学に対する「面白い」を喚起させられた講演でもあった。生徒の質問に対しても、褒めるスペシャリストらしく大学生がグッとくる褒めから入られ、聞いているこちらも心地良かった。心理学科の会一同、さらに先生の魅力にひかれ講演は幕を閉じた。 山本先生、ありがとうございました。



最後は心理学科のみんなではい、ポーズ♪

# 岩立志津夫教授 ご退職記念特集



## 【ご退職挨拶】

高橋たまき先生の後任として、1999年 の4月から心理学科で生涯発達心理学を教えてきました。日本女子大学との関わりは院生時代に遡り、児童研究所（現在は総合研究所に統合されています）で非常勤研究員として働いたのが最初です。

その時代、学会では宮本美沙子先生や古澤頼雄先生が活躍されていて、日本女子大学は発達心理学研究の中心の一つでした。そのような大学で教えることができて楽しい毎日でした。意欲ある多くの院生を育て、個性的な学部生の卒論指導ができたこともいい思い出です。

僕のHPに「心理学の分野にはいろいろな領域があります。その中でも発達心理学が大好きです。何故かを自分に問いかけるとすれば、多分それは『発達が未来志向だから』と答えると思います」と書いています。退職後もこの気持ちを忘れずに、残りの人生を楽しみたいと思います。また、与えられた自由な時間を利用して、学生時代に断念した小説書きとiPhone向けのソフト作りに挑戦したいと思っています。

## 【在学生へ向けて】

皆さんは、楽しい学生生活を過ごしているでしょうか？

僕は学部時代、哲学（実存哲学）と臨床心理学（精神病理学・自閉症の治療教育）、大学院時代は愛着の発達と言語発達、就職してからは言語発達、結婚してからはジェンダーの心理学、子どもが生まれてからは家庭心理学（父親の発達・母親の発達・家族心理学など）に興味を持つようになりました。個人的には、父親の発達・動詞の獲得・成人の文理解を中心に研究をすすめています。最近は、言語発達の基礎的研究と臨床的研究を実施する中から、言語発達の新しい理論的説明ができるべと考えて研究を進めています。

皆さんは生涯発達の中で、今が一番自由で可能性に満ちた時期です。その時期を大切にしてください。



### Q1：岩立先生が発達心理学を学ぼうと思ったきっかけを教えてください。

僕は自閉症の子どもについての研究で卒論を書きました。自閉症というのは子どもたちがどのように育つか、大きく分けて2つの問題があるのかなと考えました。1つは言語の問題があるのではないか、もう1つは対人関係の問題があるのではないかということです。2つの問題を持っている子どもが自閉症だと自分では思いました。大学院に入ったときに何を研究しようかなと思ったときに、自閉症の子どものことを続けて研究することも考えましたが、言語の問題と社会性の問題の根本的なところを知りたくなり、それを調べるには発達心理学が良いと考えました。言語の研究をするか、愛着の研究をするか、どちらにしても発達的に明らかにするということで、結局は言語発達を研究テーマに選びました。

### Q2：どんな大学生でしたか？

うーん……授業でも言っているのですが、大学生というのは発達心理学でいう「自分探しの旅」ですね。高校から大学にかけて自分は何をしたら良いのか、どういうことがやりたいのか、というような悩みがすごく強かったので、そのようなことをいつも考えていたような気がします。

### Q3：大学時代に好きだった授業はありますか？

大学時代は「実存哲学」に興味があって勉強していました、心理学の授業はあまり出ていなかったです(笑)。哲学と精神医学の授業をよく聞いていましたが、残念なことに、僕のいた大学には精神医学の授業が無かったんですよ。だけど聴きたくて、今だったら許されるか分からないけど、潜りで他の大学の授業を聴きに行っていました。

僕は学習院大学で勉強していたのですが、近くには早稲田大学と上智大学があったので、早稲田大学の精神医学の授業と上智大学の精神医学の授業をやっているのを見つけてきて、聴講していました(笑)。

### ——早稲田とか上智に知り合いがいたとかではなく？

はい。時間割を見て、聴きに行っていました。

大学院1年生のときにも早稲田に行っていました。そのときは東京女子大の先生の授業が良いなと思って聴きにいこうかなと思っていたのですが、これはだめでしたね。おっかなくて入れませんでした(笑)。ですが、幸い東京女子大学のその先生が東京大学で授業をやっていたので、東京大学に行って授業を聴いてしていました。

#### Q4：学生時代、クラブ活動はしていましたか？

大学では、クラブや部活動はしていません。ですが哲学を勉強している仲間が何人かいて、仲間と一緒に本を作って皆に配るというのを一生懸命やっていました。あとはその仲間とスキーに行ったりもしました。

#### ——スキーお好きなのでですか？

そんなに好きではないけど、運動は好きです。テニスもやります。上手ではないけど身体を動かすのが好きです。今でも走ったりしています。フィットネスクラブに入っています。今はサボっていますが、週に2・3回身体を動かしています。

#### Q5：休日はなにをしていますか？

休みの日は娘と一緒に犬の散歩をすることが多いです。

#### Q6：先生は通勤中何をしていますか？

車で来ることもあるけど、僕はバイクに乗っているんですよ。バイク通勤の方が多いですね。バイクというのは外の音がよく聞こえて、エンジンの音とか、人の声だとか、、、外界にふれるのが良いです。とても開放的だからそれが楽しいですね。バイクは好きなほうで昔から乗っています。大学時代から乗っています。

#### Q7：学食には行きますか？

僕はほとんど行かないです。お昼はお弁当を頼んで食べています。恥ずかしながら今でも女子学生に囲まれながら食べるのが恥ずかしくて行けないんです。女子大に来て18～19年ぐらいなのですが(笑)。

#### Q8：これからやりたいことはありますか？

興味があるのは、発達心理学の中の老人の研究です。ある程度研究は進んでいるのですが、まだ不十分なんですね。どういうふうに老人は発達していくべきか、生きていけば良いのか、自分を材料にして研究してみたいと思っています。

あとは散歩が好きなので、前にやっていた山歩きを出来る範囲で楽しんで自然に触れることをやりたいです。

——以上

岩立先生、お忙しい中、インタビュー質問の数々に丁寧にお答えいただきありがとうございました。



# 伊村知子先生 ご就任記念特集

2018年4月より伊村知子先生が本学心理学科にご就任なさいましたので、  
ご紹介させて頂きます。



## 経歴

関西学院大学文学部心理学科卒業。同大学大学院文学研究科心理学専攻修了。  
京都大学靈長類研究所、新潟国際情報大学を経て2018年4月より現職。

## 専門分野

比較発達心理学。進化の隣人であるチンパンジー、ヒトの乳幼児を対象とした認知研究をとおして、人間の社会や文化の影響を超えた普遍的な認知の特性や、知性の進化について取り組んでいます。  
動物たちの心をとおしてヒトの本質を明らかにしたいと考えています。

## 本学生のイメージ

授業を受け持っている中で、本学生は積極的かつ好奇心旺盛で反応が良い印象を持っているそうです。しかし、授業以外では、授業時間だと見られない意外な一面もあったりして面白いのだそうです。

## 質問コーナー

### Q1. 好きな動物

チンパンジー、猫。動物は全般的に好きな模様！



### Q2. 好きな食べ物

チョコレート、チーズ。

### Q3. 趣味または休日の過ごし方

最近は行くことができないが、1人でも複数でも旅行が好き。特に観光地以外の場所を見るのが面白い。また、自転車も好きで、数年前に佐渡島を半周(およそ100km!)サイクリングしたこと！

## 本学生に一言！

大学3年生の冬、京都大学靈長類研究所でチンパンジーの出産・子育てを見ながら卒業研究をする学生を募集していたのがきっかけで、チンパンジーの研究を始めることになりました。最初は1年のつもりでしたが、知れば知るほど、わからないことばかりで、今日に至っています。学生のみなさんも好きだと思ったことをぜひ追求してください。





# 藤崎和香先生 ご就任記念特集

2018年4月より日本女子大学人間社会学部心理学科にご就任なさった

藤崎和香先生に質問に答えていただきました。



## 1. 専門分野は何ですか？

認知心理学、心理物理学、実験心理学

## 2. 今までの経歴を教えてください

お茶の水女子大学博士後期課程修了。博士(学術)。NTTコミュニケーション科学基礎研究所博士研究員、日本学術振興会特別研究員、米国ワシントン大学客員研究員、産業技術総合研究所主任研究員等を経て、2018年4月より日本女子大学に勤務しています。

## 3. なぜ1の専門分野に興味を持ったのですか？

幼いころふとしたきっかけで、両親には絶対音感がなく、私と弟には絶対音感があることを知りました。それまでは素朴に、人間は誰でも同じように音を聴いていると思っていたのですが、そうではなく、「同じ音を聴いていても、主観的な知覚経験は同じではない」ということを知って、衝撃を受けたことがきっかけです。それから人の知覚や認知のメカニズムや個人差に興味を持つようになりました。

## 4. 最近の研究は何ですか？

聴覚、視覚、触覚など様々な感覚を統合して一体感のある知覚世界を構築している人間の心のしくみや、絶対音感に代表されるような知覚や認知の個人差、可塑性、多様性の解明を目指した研究をしています。また、音による錯覚を用いて介護食の食感を改善する、といった研究もしています。

## 5. 大学の施設で気に入っているところはありますか

まだ来たばかりなので、知らない施設が多いのですが、これから探検したいと思っています。



## 6. ご趣味は何ですか？

ピアノ演奏、読書、音楽鑑賞など



## 7. 休日は何をなさっていますか？

共同研究先で研究したり、授業の準備をしたりしていることが多いです。

## 8. 尊敬している人は誰ですか？

たくさんいらっしゃるのでお一人に絞れないですが、中学生の時に出会った先生に、大きな影響を受けました。



## 9. 学生に一言お願いします

学生のみなさんには、身の回りで起きるさまざまなことがらについて素朴な疑問や好奇心をもって、それを心理学的手法を用いて自分で明らかにすることの楽しさを知っていただけたらいいなと思います。



2018年4月より 助教の先生お二人がご就任されました。

①心理学を志した理由 ②本学生の印象についてご回答をいただきました！

### 中神明子 先生

① 心理学科に入る前に医療従事者として仕事をしていました。その中で子どもの発達についてもっと知りたいなと思ったことが心理学を学んだきっかけです。その後、ヒトを知るために動物の行動を研究する楽しさに誘われて今に至っています。学部からずっと小山高正先生のゼミでお世話になりました。

② 自分がいた頃と本質的には変わらない印象です。元気でかわいくてまじめ。ラットスタッフと関わることが多いですが、上級生の頼もしさに驚かされ、1年生の半年の成長に感激しました。自由で楽しい学生生活（カラスを餌付けするとか花壇を畑にするとか）が送れるようにサポートできればと思います。

#### ご経歴

日本女子大学大学院博士課程後期修了後、2011年に学位取得。名古屋大学大学院情報学研究科研究員として、国立精神・神経医療センター神経研究所で、ASDモデル動物の研究を行う。

### 佐藤夏月 先生

① 「実験」というワードに惹かれ、客観的に「心を計る」ということに面白さを感じたからです。主観的な体験を客観的に分析できることが面白いと思います。

② 真面目でいい子が多いなという印象があります。大学院は他大学に進学したため、よそと比べてもそのような印象が強いですね。自分が学生の時よりおとなしい学生さんが多いように感じるのは、私が年をとったからかもしれません…。

#### ご経歴

日本女子大学人間社会学部心理学科卒業。中央大学大学院文学研究科心理学専攻博士後期課程修了後、2017年に学位取得。



#### 編集後記

今年度の心理学科の会講演会では、慶應義塾大学文学部教授の山本淳一先生をお迎えし、発達障害の基礎から「どのような支援ができるのか」にわたり、現場での事例等を交えお話ししていただきました。多くの方にお越しいただき、質疑応答でも様々な議論がなされ、とても有意義な時間であったと思います。「さいころじん24号」編集にあたりましては、多くの皆様にご協力いただき、無事に終えることが出来ました。この様な素晴らしい物となりましたのも、「さいころじん24号」に関わってくださった皆様のおかげだと感じております。講演会に参加して下さった山本先生、インタビューに答えて下さった先生方、会の運営や原稿作成をして下さった院生・学部生の皆様、また、優しくご指導下さり、全ての取りまとめをして下さった中央研・先生方に厚く御礼申し上げます。

M1 土田佳奈



授教姜尚崎泥創金鹽担当教員

M1 大内 横  
市川 道理・土田 佳希  
悠養

14年 伊藤 瑞香  
江口 静奈  
泉香奈

3年 宮里 博  
向和田 勉  
衣味向子  
美輪

2年 佐藤 亮  
吉田 茂  
木下 仁

日本女子大学  
附属中学校  
に江里学園  
2019年3月開校  
東京都文京区本郷1-1-1  
TEL 03-5275-0444